

計画	第5回(12/8)	第6回 (3/11)
協働 推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 協働推進を担当しているが、市制100周年事業やSNSでの発信が開始し、緑化フェアに向けて盛り上がりを見せていると感じる。一方、ボランティアの多くは、緑化フェアの取組や意図を理解していない人が多いため、<b>ボランティアの方に緑化フェアの内容を理解してもらい、地域のキーマンとして、「ロコミ」等によって周辺住民に緑化フェアを浸透させるような取組が必要</b>ではないか。&lt;栗原副幹事長&gt;</li> <li>● 主催者側の緑化フェアに関する熱意が周囲に繋がっていないと感じる。参加者を積極的に主催者側の仲間に引き込み、緑化フェアの取組を宣伝・PRしていく必要性を感じる。&lt;栗原副幹事長&gt;</li> <li>● ボランティアの募集をこれから行うが、<b>積極的な参加を促すために早めに呼びかけ・発信が出来る</b>とよい。&lt;栗原副幹事長&gt;</li> <li>● 緑化フェアのコンセプトの発信について、「(市内)みどりの関心：高」のターゲット層はクリアしているが、「(市内)みどりの関心：低」のターゲット層に向けては、各主体、年代ごとに伝わりやすい表現を整理する必要がある。また、<b>活動の最初の火をつけるころは一緒に参加する必要がある</b>。川崎市ではこれまで、緑(の施策)のプライオリティが高くなかったが、中間組織的なコーディネーターの巻き込みも含めて「(市内)みどりの関心：低」のターゲット層を盛り上げていく必要がある。その際に、新規にイベントを実施するのではなく、<b>既存イベントと上手く組み合わせる実施できるとよい</b>。&lt;福岡幹事長&gt;</li> <li>● 緑化フェアに巻き込む企業数やプログラム数などの目標は具体的に持つ必要がある。&lt;福岡幹事長&gt;</li> <li>● ボランティア数は150名では足りないと感じる。また、現在は個人がQRコードを読み取り参加する形だが、団体ごとに募集できると参加者数が集まるのではないかと感じる。&lt;萩原幹事&gt;</li> <li>● <b>学校を巻き込むことは非常に重要</b>であり、<b>学校対抗のアワードを実施してほしい</b>。等々力会場の近くの小中学校からエントリーを受けて、競い合うような取組が出来ると盛り上がりにつながる。&lt;萩原幹事&gt;</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ボランティア募集は、令和5年10月31日(火)から令和6年1月9日(火)までおこなった。ホームページへの掲載、XやInstagramでの発信、市内高校、大学、公園緑地愛護会、管理運営協議会や、公園緑地協会を通じてみどりの活動団体の皆様にも案内を送付した。</li> <li>● 10月以降に開催された<b>公園緑地愛護会と管理運営協議会の合同連絡会</b>(7月実施の多摩区を除く6区)においても、フェア全体の説明とともに、<b>ボランティア募集していることを御案内</b>させていただいた。</li> <li>● 150名程度を想定していたが、190名の応募があった。ボランティア登録者向けの説明会を、2/21(水)、2/26(月)、2/28(木)、3/3(日)に、コア会場のある川崎区、中原区、多摩区で合計7回実施し、フェアの理念や協働の取組、現時点でのコア会場のイメージなどを説明させていただいた。</li> <li>● <b>若い世代や関心の低い層向け取組として</b>、3/2(土)、3/3(日)にラッタデッラで開催された「ミモザフェスタ」において、フェア会場で予定のスカイランタンを活用した<b>夜の演出や、「お花釣り」のブースを実施</b>した。また、2/15(木)から3/17(日)までのミモザフェア期間中において、<b>「かわさきそだち」を活用したオリジナルメニューを開発、提供</b>していただいている。<b>既存のイベントや企業の取組と連動させ、相乗効果を生み出せるよう、さらに連携を深めていきたい</b>。</li> <li>● <b>学校での取組は、それぞれに特色があり、様々な場面で紹介、発表をするなどして、事例を共有し、さらなる取組を促していきたい</b>。</li> </ul>

計画	第5回(12/8)	第6回 (3/11)
会場 計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>緑化フェアが何をもたらすのかという視点で整理が必要</b>である。フェア会場がスクラップアンドビルドになってはいけない。仙台市ではレガシー担当をつくり、フェアで荒れた会場を修復する取組を行っている。レガシーについては、次回の幹事会の議題にあるので期待したい。&lt;福岡幹事長&gt;</li> <li>● <b>フェア前に育てて会期中に使用した植物が、フェア後にまた地域に戻っていくような仕組み</b>にできるとよい。&lt;福岡幹事長&gt;</li> <li>● <b>緑化フェアを実施する意義・メリット</b>を明確にする必要がある。主催者側の論理の整理は出来ているので、「作り手」側の論理に目線を変えて検討する必要がある。<b>ユニバーサルデザイン・ダイバーシティ</b>といった視点で3会場を再度確認する必要がある。&lt;渡辺幹事&gt;</li> <li>● 各会場で<b>垂直花壇アートが非常にアピールになると感じた</b>。ランタンのイベントの実施時期や内容を合わせて周知出来るとよい。&lt;萩原幹事&gt;</li> <li>● 企画ブースは面積的に広いため、より多くの展示ができるとよい。<b>参加者の費用負担がハードル</b>になると感じる。会場のインパクトを生み出す意味では、<b>会場でメインとなる部分は川崎市の資金を投入する</b>など、緑化フェアでは皆が幸せになるイベントにする必要があるので、誰かが犠牲になるような仕組みにはしてほしくない。&lt;萩原幹事&gt;</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>富士見公園の農と自然を体感する広場における市民活動の取組、パークセンターの室内緑化、等々力緑地の樹林地の利活用、釣り池の利活用、生田緑地の緑地内の資源の利活用、ばら苑の魅力向上に繋がる地域との連携</b>のほか、富士見通り、今井上町緑道、向ヶ丘遊園駅前、飯室谷戸町会などの<b>まちなかの花壇における市民や企業との協働による花壇づくり</b>について、一部調整中のところもあるがレガシーとして残していく予定。 また市役所通り、小杉2 1号線などの道路や、新丸子駅前広場や小杉コアパークなどの<b>公共空間の活用を推進</b>していく。</li> <li>● <b>育てた花を通学路や商店街などに飾る取組を引き続き進めていく。</b></li> <li>● 会場の<b>整備と運営両方の面で、ユニバーサルデザインやダイバーシティの観点で確認</b>をしていく。</li> <li>● 会場でメインとなる部分は川崎市の資金を投入して整備しつつ、コンテストの出展や個別協賛による装飾など<b>事業者側にも金銭以外のメリットが感じられるものについては、事業者の技術力などのPRの場として負担のない範囲で出展していただく。</b></li> </ul>

計画	第5回(12/8)	第6回 (3/11)
出展 展示	-	-
植物 調達 ・ 管理	<p>●植物調達について確認事項と要望がある。当初より川崎市緑化フェアの植物は市内産の植物を積極的に活用すること、市内産花卉調達を優先することを方針と認識しており、現在市内の花生産者に対して説明・ヒアリングを実施している。品目によっては生産可能な品目であってもフェアで取り扱いが難しいものがあるが、<b>現在市内で生産可能な花材、準備可能な花材は是非会場装飾に活用してほしい。</b>デザインが正式に決まっていない状況では植物調達の判断が難しいため、早急にデザインを検討いただき、報告をお願いしたい。&lt;矢澤幹事&gt;</p> <p>●また、<b>納品を予定している市内産花卉については、市場出荷の規格で納品するのか、花の状態（1輪でも咲いていればよいのか、6輪など多くの花が立ち上がった状態）などは納品の数量に大きな影響を及ぼすため、早急に回答いただきたい。</b>&lt;矢澤幹事&gt;</p> <p>●フェア期間中に納品予定の花卉について生産者に品種の聞き取りを行っているが、<b>生産者からは川崎市がデザインを早急に決定し、デザインに沿った希望品種を生産者に対して作付け依頼する形が望ましいとの意見</b>をいただいている。特に万単位で生産を予定している生産者からはこのような意見をいただいている。川崎市で希望品種を決めて生産者に対して栽培依頼をかけて対応可能な品種のみを対象とするのか、または、川崎市が当初より予定していた川崎市の花を最優先にする考えから市内生産者が栽培し提供する花材は品種や色などの制限はせずすべて納品することが出来るのか早急に決めていただきたい。&lt;矢澤幹事&gt;</p> <p>●デザインに加えて価格についても、<b>納品リストの花をいくらで買い取って貰えるのか明確にしていきたい。</b>花の価格は生産者の重要な判断基準となる。花の価格について、植物調達協議会に一任するのであれば早急に議論を始める。市に回答いただけるのであれば、いつ頃に価格が決まるのか明確にしてほしい。&lt;矢澤幹事&gt;</p>	<p>●市内生産者が提供可能な植物種も踏まえ、具体化を図ってきた<b>会場設計をもとに必要な植物品種を整理した。</b></p> <p>●納品のレギュレーションについては、植物調達協議会にてとりまとめる予定であり、<b>納品時の規格や方法など基本的な事項については、事務局と植物調達協議会で確認した。</b></p> <p>●上記内容について、植物調達協議会にて市内調達を担当する<b>JAセレサ川崎を通じ、具体的な植物品種、調達数、予定価格を提示し、各生産者の配分などの調整が進んでいる。</b></p>

計画	第5回(12/8)	第6回 (3/11)
観客誘致 ・ 広報宣伝	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 緑化フェアに関わっている人に主体性をもってもらうことが重要である。発信力のあるイベント会社の巻き込みもある。川崎市内商店街連合の会合の中で市制100周年事業、川崎市緑化フェアの取組内容を理解している人が少ないと感じた。<b>緑化フェアの内容を年配の方や商店街組織の方が理解できるように、出来るだけシンプルで分かりやすい表現が必要</b>である。緑化フェアでどんなことを行うかが分かるだけで、協賛や協力を仰ぐことが出来る。年配世代や個人の方など多くの方に主体性を持ってもらうことが重要である。&lt;反町幹事&gt;</li> <li>● 川崎市緑化フェアは全市民参加型である。先日小学校2年生向けに行った取組の中で、川崎市の市制100周年事業や緑化フェアの取組を子供たちに説明する際に「川崎市の100歳の誕生日」「花の祭典」、市民みんなが参加すること、お花が咲くとみんなが笑顔になりまちが豊かになるなど、<b>簡単な言葉で全員が分かる言葉で広報することが重要</b>だと感じた。&lt;深町幹事&gt;</li> <li>● <b>市民全員分かる言葉</b>、例えば「100歳の誕生日祝い」でまちにお花や緑を飾りお祝いすること（緑化フェアの取組）などは非常にイメージが出来るため、<b>みんなが参加したくなるような切り口で、キャッチーで分かりやすいキーワードを考えたい</b>。&lt;大西幹事&gt;</li> <li>● テーマ性や意義性について一度再整理すると解決策が見つかるのではないか。例えば、会場のキーワードで、富士見公園では「体験×みどり」の文言が一般の人には分かりにくいいため、<b>会場の特徴や世界観をキャッチーに発信できるようなワードがあるとよい</b>。&lt;渡辺幹事&gt;</li> <li>● 会場の地図をPDFで作成するが、それ以外に<b>デジタル上の地図やイメージが湧くようなコンテンツがあるとよい</b>。&lt;福岡幹事長&gt;</li> <li>● カウントダウンボードは川崎FMにも設置したい、年間で1500～2000人の来訪があるため、活用してほしい。&lt;大西幹事&gt;</li> <li>● また、緑化フェアを国内だけではなく、<b>グローバルな取組に位置づけ</b>、例えば<b>外国人の居住者に向けた取組や巻き込み</b>を考えるなど、視点を変えて再度考えてほしい。&lt;渡辺幹事&gt;</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 引き続き、<b>ターゲットごとに伝達方法や内容、キーワード等を工夫しながら、来年度の出来るだけ早い時期に、公式WEBサイト等の活用やイベント等の取組と一体的に、かわさきフェアの目的や概要を分かりやすく案内を行っていく予定</b>。</li> <li>● <b>パース等を活用し、多くの方々と会場のイメージを共有</b>できるように検討を進める。</li> <li>● 希望される企業・団体の皆様全てにボードをお配りすることは難しいことから、<b>デジタル版の活用など、早急に対応を検討</b>する。</li> <li>● 市内に滞在するインバウンド等に向けて、世界と日本、地方と地方のハブである<b>会場パンフレットの外国語版の作成</b>に加え、<b>羽田空港の活用や、ホテルや協賛企業等と連携した各種取組の実施</b>に向けた検討を進める。</li> </ul>

計画	第5回(12/8)	第6回 (3/11)
観客誘致・広報宣伝	<p>● SNS を活用してほしいが、「#」の内容が長いと感じる。<b>緑化フェアまでのカウントダウンを個人が出来る仕組み</b>（「あと〇〇日」というプレートを自分たちでプリントアウトして庭や公園などで写真を撮ってSNS に投稿するなど）など、皆が同じ方向を向いて統一感のある取組を発信出来るとよい。＜深町幹事＞</p> <p>● 緑化フェアの内容が詰まってきた中で、広報の発信方法には課題があると認識しているため、必要に応じて分科会を設置して内容を詰めていく必要がある。広報・協賛でメディアを巻き込むことは重要である。トップスポンサーの扱いやロゴの掲載なども検討する必要がある。川崎に親しみのある方に向けて、<b>テレビ、新聞、タウン誌、SNS を活用</b>していきたい。また、SNS のシティプロモーションのアカウントはフォロワー数が多いため活用していきたい。広報の観点から<b>フォロワー数やアクション数などのKPI を持ち、取組を継続して行う</b>必要がある。＜大西幹事＞</p> <p>● みどりに携わっている方の発信意欲を刺激するような企画、例えば写真コンテストなどSNS を使用する意義があるような企画を作っていく必要がある。みどりに携わっている人の意見を聞きながら「我が町一番」と思えるような企画を考えていきたい。商店街対抗、学校対抗などの取組もよい。＜大西幹事＞</p> <p>● <b>メディアが応援したくなるような企画</b>を作り上げていく必要がある。＜大西幹事＞</p>	<p>● SNSの中でも即時的が高いツールであることから、<b>昨年12月から各担当ラインでの取組状況の投稿を行い、投稿数を増やすとともに、プレゼントキャンペーンを行うなど、よりバラエティーに富んだ情報の発信を意識</b>しており、2月1日現在のフォロワー数は、「X」は804人、「Instagram」は、1,179人。引き続き、増加に向けて、<b>試行錯誤しながら様々な取組と一体的な広報を進める</b>が、現在のところ数に関するKPIの設定は予定しておりません。</p> <p>● 協賛特典である「公式ポスターへの企業・団体名掲載」の期限としていた2月末日時点でいただいた広報協賛を踏まえて、<b>企業・団体が持つノウハウや資産等を活かした広報PRを実施する予定</b>。</p>
協賛	<p>● <b>企業協賛金の使い道を明確に示す</b>必要がある。<b>協賛金の申込状況</b>を分かる範囲で教えてほしい。＜渡辺幹事＞</p> <p>● 園芸メーカー・企業は緑化フェアがあることは知っているが、協力方法が分からないため、<b>連絡窓口や協賛の募集口を明確にし、協力方法を整理してアピール</b>できるとよい。＜深町幹事＞</p>	<p>● 協賛特典である「公式ポスターへの企業・団体名掲載」の期限としていた<b>2月末日時点で、約1億円の資金協賛と、広告や物品等協賛をそれぞれ約5千万円の申込</b>をいただいた。引き続き、フェア開催に必要な協賛について、様々な機会を通じて幅広く募集を実施していきたい。協賛金の使い道についても、適宜ご報告する予定。</p>
行催事	-	-

計画	第5回(12/8)	第6回 (3/11)
飲食 ・ 物販  (営業 参画)	<p>●11月1日(35名参加)に川崎市内のホテル事業者を集めて勉強会を実施した。市にレストランやホテルの参加の仕方を説明してもらったが、<b>エントリー方法が決まれば今後周知していきたい</b>。また、11月29日(30名参加)には飲食店向けに説明会を実施した。説明会以外にも声かけを行っており400-500名には説明をした。<b>ポスターなども市内のホテルで宣伝していきたい</b>。&lt;萩原幹事&gt;</p>	<p>●飲食・物販については、現在、<b>募集に向けてテントやキッチンカーの配置、設置数、電源確保などの条件整理を行っており、年度内に取りまとめ</b>を行う。<b>秋開催の募集は4月末以降</b>を、春開催の募集は、秋開催での様子も見て、出店判断をする方もいると思うので、11月以降を予定している。</p> <p>●展開イメージとして「<b>川崎産の農産物</b>等を使用した料理や川崎ならではの<b>食文化の発信</b>につながるご当地グルメ等の提供」と記載しており、<b>市内の店舗にはぜひ御参加いただきたい</b>と思っている。また、エリア内の商店街や飲食店等をめぐりながら、オリジナルメニューを堪能する企画を検討するなど、<b>エリア内での飲食も来場者に楽しんでいただきたい</b>と思っている。</p>
会場 運営 ・ 交通 輸送	<p>●来年4月から交通輸送の取組が始まるため協力・助言していきたい。富士見公園や等々力緑地は平坦で交通アクセスがよいが、<b>生田緑地は坂が多く、道路幅員が狭いため懸念事項があるため、マニュアル作成の段階から助言していきたい</b>。&lt;米川幹事&gt;</p>	<p>●4月に契約予定のフェア本番の<b>運営業務事業者とマニュアルを作成する際は、ぜひご助言をいただきたい</b>。</p>